

司書のオススメ本

< 企画展示コーナーから選んでみました >

『仕事道楽—スタジオジブリの現場』

鈴木敏夫 (著) 岩波書店 2008

配架場所：新書コーナー

請求記号：080||IWA||1143

スタジオジブリのプロデューサー鈴木敏夫が語る仕事術。といっても、タイトルに道楽とついているように、好きな人たちと好きなことをやってきて、いい仕事ができたと著者は語るのです。宮崎駿や高畑勲といった巨匠たちとの変なエピソードが満載で、和気あいあいとした雰囲気の中作品が生まれたことを伺い知ることができます。凡人が同じように仕事をして成功するかどうかはかなり疑問ですが、ジブリの社名の由来や、ナウシカラストシーンの裏話なども知ることができる、ジブリファンにもたまらない一冊です。

『ぼちぼちいこか』

マイク・セイラー (著), ロバート・グロスマン (イラスト), 今江祥智 (翻訳)

偕成社 2008

配架場所：絵本コーナー

請求記号：E||I||THA

のんびりおっとりのカバくんは、なりたいものが多く、消防士、船乗り、パイロット…と、次々と色んな職業に挑戦します。が、ことごとく失敗してしまいます。焦ったり、落ち込んだりするかと思いきや、当のカバくんは「ぼちぼちいこか」と一休み。洋書絵本が、関西弁で翻訳されているのが面白いです。自分の適性を焦らずに探してもいいんだよという優しいメッセージにあふれた作品です。進路に悩んでいる人、がんばっている人に読んで欲しい一冊です。

『灯し続けることば』

大村はま (著) 小学館 2004

配架場所：一般書架

請求記号：370.4||IOMU

「国語教育の神様」と呼ばれた大村はま。数々の著作や講演から厳選された彼女のことばたちに、耳を傾けてみませんか？「伸びようという気持ちを持たない人は、子どもとは無縁の人です」「いかに言い訳しても、子どもがだめなのは、教師の不始末によるのです」「教師が傷つかないと、子どもはつまらないのです」「子どもほど、マンネリがきらいな人はいません」教育者としてのあるべき姿だけではなく、子どもに対する考え方や、大村はまの情熱がぎっしり詰まっています。

『わたし8歳、カカオ畑で働き続けて。児童労働者とよばれる2億1800万人の子どもたち』

岩附由香 (著), 白木朋子 (著) 合同出版 2008

配架場所：一般書架

請求記号：366.38||IWA

日本で生活していると、児童労働の問題は、他人事だと思ってしまう人が多いでしょう。しかし、食物の多くを輸入に頼っている日本人は、世界の子どもたちが働いて作ったものを食べている可能性があるのです。児童労働の実態・原因、児童労働をなくすために今できることが、詳細に書かれています。特に、教育の大切さが語られていますが、日本では当たり前のように享受している教育を受ける権利が、世界ではまだまだ浸透していないことが分かります。勉強ができる環境に感謝してみませんか！？